

「ICT分野における経済安全保障の確保とOpen RANの最新動向」

- ICT分野における経済安全保障実現のための施策
- 世界のOpen RAN導入動向と最新の商用活用事例
- 仮想化・AI RANに向けた技術的な状況整理
- 市場拡大に向けた障壁とその克服に必要なエコシステム形成

講師	(座長) 上智大学 理工学部 客員教授 (開催趣旨説明) マルチメディア推進フォーラムモバイル部会 部会長代理 (元・エリクソンジャパンCTO)	服部 武 氏
	総務省 国際戦略局 国際戦略課長 株式会社OREX SAI CTO (講演順) 楽天シンフォニー株式会社 ガバメントアフェアーズ本部 シニア・ヴァイスプレジデント lFinity株式会社 モバイルシステム事業本部 Executive Director	藤岡 雅 宣 氏 嶋田 信 哉 氏 安部田 貞 行 氏 割澤 広 一 氏 関野 徹 氏

事務局 ハイテクノロジー推進研究所 〒150-00036 渋谷区南平台町15-12 南平台アイアイビル2F TEL 03(6416)0190代 FAX 03(6416)5351

「マルチメディア推進フォーラム」のご案内 明日の社会発展をリードする情報通信を目指して

情報通信技術が人類の新しい生き方を作り出し、新しい社会を作り出していることは、21世紀に入ってから一般の人々を含め広く認識されるようになった。歴史的にも、人間は近くにいる人々との対話によって協力関係を構築し、グループで力を発揮することによって世界を変化させてきた。通信技術は対話の範囲を広げその能力を強化している。

マルチメディア推進フォーラムは日本の情報通信の発展のために、新しい技術とサービス、その社会的対応と法制度などを多角的に議論するフォーラムである。1990年ころから準備を進め、1994年からは現在の名称となって多くの方々の支援を得て、独占から競争へ、電話からインターネットへ、固定から携帯への変化をとらえ様々に論じてきた。特に情報通信ネットワークのサービスが競争環境で行われるようになった今日、競争状況のなかでなお、ネットワーク事業者は接続されるネットワークについて相互に理解し協力しなければサービスは成立しない。そのためには多くの事業者が相互に理解するチャンネルをオープンに持つことが不可欠であり、本フォーラムでの議論はネットワークサービスの円滑な発展のためにも貢献していると考えている。

通信技術はその発生以来、人と人が交信する技術として発展してきたが、21世紀に入り世界のすべての人が端末を持つようになり、市場は飽和してきた。また通信端末は長く固定端末であったが、携帯端末が主流を占めるようになってきた。このような展開は20世紀には見られなかったことで、21世紀に入ってからの変化は急激である。コンピュータに代表される情報技術は70年前に実現したが、ムーアの法則による超小型化の進展によって社会の隅々に情報処理技術を広げてきている。コンピュータの能力は高まり、大量情報の取り扱いによって、過去においては取り扱いが困難であった巨大な情報に適用することにより、いままでも気が付かなかった現象を分析し、われわれの知識を増やしつつある。このような技術は、すべての社会活動の基礎として広く産業化され、社会化されるようになってきている。

多くの情報は社会の様々な場面で発生する。それぞれの場面には多様な産業がある。家庭では家庭用の機器産業がある。鉄道では交通サービス産業がある。エネルギーを供給する電力産業、医療事業、自動車産業など多様な産業も情報処理と通信の技術を活用しながらサービスを展開しつつある。このような技術における通信はM2M通信（機械と機械の通信）と呼ばれるが、多様な背景を持つ技術のM2M通信について、その初期には産業分野ごとに通信ネットワークを構築する議論も稀ではない。しかし、各分野が独自に情報通信設備を構築することは現実的でない。M2Mネットワークの本質を理解しつつ、共通の通信インフラストラクチャを構成することは情報通信産業に課せられた課題である。同時に情報通信産業は個々のアプリケーションを形成する活用技術について、その特質を理解しなければならない。そのためには、技術を技術としてだけ論ずるのでは不十分である。技術を国際的視野から、社会的な側面を含めて分析し、関連する産業、法制度との整合性を含めて理解することが重要である。時には産業構造の変革、法制度の見直しを考えることも話題になろう。

マルチメディア推進フォーラムは、情報通信技術の多様な発展について論じつつ、新しい市場の特性を理解した幅広い問題を考慮しながら、情報通信事業とサービスの将来を論じたいと考えている。

ICTはますます多様化し、産業としても社会としても重要性を増している。社会のICT化はその社会が国際的に競争力を維持するための基本的要素となっている。マルチメディア推進フォーラムはそのための技術、社会、普及の条件等を幅広く討議し、競争力のある社会を形成する方策について議論を進めている。今日に至る情報通信技術の変革期の中で、その適切な発展のために当フォーラムの果たして来た役割は大きい。このような役割は今後ますます大きくなると考えている。皆様のそれぞれの活動の発展のためにもマルチメディア推進フォーラムに対する御支援をお願いする次第である。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門にご回覧下さいますようお願い申し上げます。

■ 「マルチメディア推進フォーラム — PART 1011 — 」開催内容
(主催)マルチメディア推進フォーラム

テーマ 「ICT分野における経済安全保障の確保とOpen RANの最新動向」

日時 2026年 7月 9日 (木) 13時00分～17時00分

時間	講演内容	講師
<p>(本フォーラムの趣旨・論点)</p> <ul style="list-style-type: none">● ICT分野における経済安全保障実現のための施策● 世界のOpen RAN導入動向と最新の商用活用事例● 仮想化・AI RANに向けた技術的な状況整理● 市場拡大に向けた障壁とその克服に必要なエコシステム形成		
<p>経済安全保障の観点から、地政学的リスク、紛争リスクなどが世界規模で顕在化し、ICT分野におけるビジネスにも大きな影響を与え始めています。このため政策面、事業継続性の観点から様々な対応がとられてきています。Open RAN (Open Radio Access Network) はモバイルネットワークのオープン化やAI化を実現する手段としてだけでなく、このような経済安全保障の観点からも注目をされています。</p> <p>5Gから6Gへと向かうモバイル通信の進化において、Open RANは世界中の通信事業者・政府・ベンダーが最重要テーマとして位置づける革新的な通信ネットワークアーキテクチャです。Open RANは、無線アクセスネットワークのオープン化・仮想化・マルチベンダー化を実現し、地政学的リスクの回避、設備コスト削減、イノベーション促進など、多くの期待を集めています。加えてOpen RANアーキテクチャをベースにしたAI RANの検討、検証、実用化が急速に進展しています。</p> <p>Open RAN の普及には、リアルタイム処理遅延の最小化、マルチベンダー間の相互運用性検証、AI制御や運用監視機能の統合、セキュリティ確保など、乗り越えるべき課題があります。これら課題の解決には、Open RANを導入する通信事業者だけでなく、政策、標準化機関、ベンダーなどの戦略にも深く関わるテーマとして議論が高まりつつあります。</p> <p>また、世界初のフルクラウド型 Open RAN の商用展開や、欧米での大手通信事業者による段階的導入など、商用ネットワークへの導入事例が増えており、Open RAN が「実験段階」から「実用フェーズ」へ移行しつつあるといえます。さらに、O-RAN Allianceでは、AI機能を組み込んだRANのインテリジェント化を見据えて、6G時代のオープンで協調的なネットワークを標準化する取り組みを強化しています。</p> <p>本フォーラムでは、ICT分野における経済安全保障の実現に向けた取組を概観した上で、世界のOpen RAN 導入動向と最新の商用活用事例、仮想化・AI統合を含む技術的な現状整理、市場拡大に向けた障壁とその克服に必要なエコシステム形成などについて網羅的に解説します。</p>		
<p>(座長)</p> <p>上智大学 理工学部 客員教授 服部 武</p>		

13:00 ～ 13:10	(開催趣旨説明)	質疑 応答	藤岡雅宣氏 マルチメディア推 進フォーラム モバイル部会 部会長代理 (元・エリクソン ジャパンCTO)
13:10 ～ 14:05	「デジタルインフラの海外展開と経済安全保障の確保に向けた取組」 ●経済安全保障の実現に向けた総務省の取り組み ●Open RAN、AI RAN、海底ケーブル、APN等の普及・海外展開への政策 ●Open RANの普及&競争力強化への課題	質疑 応答	嶋田信哉氏 総務省 国際戦略局 国際戦略課長
14:05 ～ 15:00	「OREX SAIのグローバル事業展開」 ●OREX SAIのビジネスモデルおよびソリューションポートフォリオ ●グローバル市場での展開事例 ●OREX SAIの事業拡大に向けた課題と取組	質疑 応答	安部田貞行氏 株式会社OREX SAI CTO
(休憩) (15:00～15:10)			
15:10 ～ 16:05	「クラウドネイティブな通信プラットフォームの展開」 ●クラウドネイティブなOpen RANアーキテクチャ ●AI・自動化による通信運用の高度化 ●クラウドネイティブ・ネットワークプラットフォームの提供 ●グローバル市場への展開事例	質疑 応答	割澤広一氏 楽天シンフォニー 株式会社 ガバメントアフェ アーズ本部 シニア・ヴァイス プレジデント
16:05 ～ 17:00	「1FinityのOpen RANソリューションと事業展開」 ●1FinityのOpen RANソリューション ●国内&海外市場でのOpen RAN事業の取組事例 ●さらなる事業拡大のための課題と取組	質疑 応答	関野徹氏 1Finity株式会社 モバイルシステム 事業本部 Executive Director

- 当日、講師の都合により、代理講師による講演あるいは講演順序を変更する場合があります。
- 受講者交替可。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門に
ご回覧下さいますようお願い申し上げます。

「マルチメディア推進フォーラム」委員会

(順不同 敬称略)

委員長
齊藤 忠夫 東京大学 名誉教授

(運営諮問委員会幹事)

代表幹事
齊藤 忠夫 東京大学 名誉教授

副代表幹事
服部 武 上智大学 客員教授
森川 博之 東京大学 大学院工学系研究科電気系工学専攻 教授
成宮 憲一 一般社団法人 科学技術と経済の会 専務理事

幹事
尾上 誠三 国際電気通信連合 (ITU) 電気通信標準化局長
川野 真稔 デジタル庁 戦略・組織グループ参事官
間宮 淑夫 元・内閣官房参与
渡邊 昇治 内閣官房内閣審議官
西尾 崇 国立研究開発法人 土木研究所 戦略的イノベーション研究推進事務局 次長

立川 敬二 ㈱ハイテック推進研究所 取締役・特別顧問
(宇宙航空研究開発機構 元 理事長)

有賀 寿 日本放送協会 技術局 局長
川添 雄彦 NTT㈱ チーフエグゼクティブフェロー
池田 敬 NTT東日本㈱ 代表取締役副社長
桂 一詞 NTT西日本㈱ 代表取締役副社長
海老原 孝 NTT㈱ 常務執行役員 技術企画部門長
佐藤 隆明 ㈱NTTドコモ 代表取締役副社長 CTO、CAIO、CPO
伊東 匡 NTTアドバンステクノロジ㈱ 代表取締役社長

稲葉 陽子 ㈱NTTデータグループ 技術革新統括本部

中村 元 KDDI㈱
宮川 潤一 ソフトバンク㈱
石原 直 東京大学大学院
浅見 徹 ㈱国際電気通信基礎技術研究所
遠藤 信博 日本電気㈱
新野 隆 日本電気㈱
木内 道男 日本電気㈱

高木 康志 富士通 (株) SVP システムプラットフォームBG エグゼディレクター
石田 貴一 ㈱日立製作所 事業部長
伊藤 明男 ㈱HYSエンジニアリングサービス 代表取締役 取締役社長
梶村 啓吾 エクシオグループ㈱ 代表取締役社長
加茂下哲夫 /アソリューションズ&ネットワーク㈱ 代表執行役員社長

(主な設立発起人)

齊藤 忠夫 東京大学 名誉教授
吉川 弘之 東京大学 元 総長
立川 敬二 ㈱ハイテック推進研究所 取締役・特別顧問
(宇宙航空研究開発機構 元 理事長)

杉本 榮一 自由民主党 元 政務調査会 調査役

(最高顧問)

甘利 明 元・経済産業大臣
金子 一義 元・国土交通大臣
林 芳正 元・防衛大臣

マルチメディア推進フォーラム – P A R T 1 0 1 1 – 開催

●日時 2026年 7月 9日 (木) 13時00分～17時00分

●本フォーラムは会員様限定Zoomでのオンラインフォーラムとなります。
オンラインのみの開催となりますのでご了承の上お申込み下さい。
(一部、一般受講も受付けておりますのでご希望の方はお問合せ下さい。)

●参加申込要領

●受講料 ¥54,010.- (消費税を含む)

●申込先 事務局 ハイテクノロジー推進研究所 TEL (03)-6416-0190
〒150-0036 渋谷区南平台町15-12 南平台アイアイビル2F FAX (03)-6416-5351
E-mail fm@ahri.co.jp

●申込方法 申込書に所定の事項をご記入の上、FAX又は、Web上
(<http://www.ahri.co.jp>)にてお申し込み下さい。

●送金方法 銀行振込 みずほ銀行 渋谷中央支店 1554932 (普)
三菱UFJ銀行 渋谷明治通支店 3504194 (普)
※領収書のご必要な方は、通信欄にご記入下さい。

●キャンセル フォーラム開催前、7月2日までのキャンセルは可能ですが、お電話にてご連絡をお願い
申し上げます。その後のキャンセルについては、お申し受けできませんのでご了承下さい。その場合は
代理の方の出席か当日配布の「資料」の送付をもって出席とさせていただきます。

●申込書について ご記入頂いたご連絡先は本フォーラムの事後連絡として使用させていただきます。
尚、今後開催されるフォーラム等のご案内を配信(又は送付)させていただきますが、今後 弊社からのご案内を停止される方は、事務局までご連絡いただけますようお願い申し上げます。

きりとり線

「マルチメディア推進フォーラム – P A R T 1 0 1 1 – 申込書

(申込日) 月 日

会社名		TEL () -	
		FAX () -	
		E-mail:	
会社住所	〒		
NO	受講者・所属・役職	受講者氏名 (ふりがな)	

支払方法	●銀行振込 () 銀行 ●年 月 日振込予定	通信欄	請求書一 要・不要